



高山記者クラブ同時配布資料

平成29年2月8日（水）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
中山間農業研究所	試験研究部	そでがき 袖垣・さかがいと 坂垣内	直通 0577-73-2029 FAX 0577-73-2751

## 「中山間農業研究所本所研究成果検討会」の開催について

岐阜県中山間農業研究所では、中山間農業を取り巻く諸課題に的確に対応した新たな技術開発を行うため、地域と一体となった研究に取り組んでいます。

このたび、地域の農業関係者に対し本年度の試験研究の成果を報告し、生産現場へ迅速な普及を図ることを目的として、下記のとおり研究成果検討会を開催します。

### 記

- 1 日時 平成29年2月15日（水） 13:20～16:10
- 2 場所 古川町総合会館2階 古川町公民館 大会議室  
(飛騨市古川町若宮二丁目1-66 電話：0577-73-6115)
- 3 参加対象者 約100名 農業者、農業関係団体・市町村職員等
- 4 内容等

#### (1) 日程スケジュール

13:20～13:35	挨拶、日程説明
13:35～14:35	成果発表検討①（3課題；課題概要以下のとおり）
14:35～14:45	休憩
15:45～16:00	成果発表検討②（4課題；課題概要以下のとおり）
16:00～16:10	挨拶

#### (2) 課題概要

課題名	内容
定植時期の早晩が「 <sup>すくな</sup> 宿儺かぼちゃ」の品質等に与える影響 (13:35～13:55)	飛騨地域特産野菜「 <sup>すくな</sup> 宿儺かぼちゃ <sup>*1</sup> 」は一般的な作型では5月下旬に定植、9月に収穫されるが、定植時期の違いが収穫期や果実品質へ与える影響は不明であったため、最適な定植時期について検討。
モモ新品種「 <sup>ひだ</sup> 飛騨おとめ」の県内地域適応性 (第一報) (13:55～14:15)	当研究所育成のモモ新品種「 <sup>ひだ</sup> 飛騨おとめ <sup>*2</sup> 」の飛騨地域以外での適応性を明らかにするため、県内各地に試験地を設け、収穫期や果実品質等について調査。
トルコギキョウに対する高温の影響の品種間差 (14:15～14:35)	近年の夏季の高温の影響でトルコギキョウ栽培が難しくなってきたため、飛騨地域で栽培されるトルコギキョウの品種について高温処理し、障害の発生や生育への影響の品種間差について検討。

<p>ホウレンソウ栽培における外張り遮光資材の自動開閉管理 (14:45~15:05)</p>	<p>飛騨地域のホウレンソウ栽培においては、夏季の高温障害を回避するための遮光資材の被覆と回収に多大な労力を要するため、天候に応じた遮光資材の自動開閉システムを考案し、その有効性について検討。</p>
<p>夏秋トマト葉先枯れ症の軽減対策（第四報） (15:05~15:25)</p>	<p>前年度までの研究の結果、トマトの生理障害「葉先枯れ症<sup>※3</sup>」は、開花期を迎えた花房の直上葉を全摘葉することで軽減される一方、収量がやや低下することが判明したため、摘葉する葉数や葉位の違いが葉先枯れ症の軽減効果や収量に及ぼす影響について検討。</p>
<p>恵那産「コシヒカリ」の良食味化研究 (15:25~15:40)</p>	<p>「コシヒカリ」の良食味米栽培のため、移植時期、ケイ酸カリウム施肥、登熟期の用水かけ流しが食味に与える影響とケイ酸カリウムが根の活性に与える影響等について調査。</p>
<p>飛騨産「コシヒカリ」の品質・食味向上に関する研究（第二報） (15:40~16:00)</p>	<p>食味ランキング<sup>※4</sup>で「特A」を獲得し、市場評価が高まっている飛騨地域の「コシヒカリ」について、更なる評価向上に向けて、施肥方法、移植時期、選別条件等の違いが品質及び食味に与える影響について検討。</p>

#### 【用語解説】

##### ※1 宿儺かぼちゃ

高山市丹生川町で古くから栽培されてきた、ヘチマのように長細く、栗のようにほっくりとした味わいのかぼちゃ。丹生川町に古くから伝わる「両面宿儺<sup>りょうめんすくな</sup>伝説」にちなみ、平成13年に「宿儺かぼちゃ」と命名され、「宿儺かぼちゃ研究会」による組織的栽培が行われている。

##### ※2 飛騨おとめ

中山間農業研究所が育成し、平成25年12月16日に登録された、岐阜県初のモモのオリジナル品種。岐阜県飛騨地域における基幹品種の「白鳳」と「昭和蜜桃」の端境期を埋められる良食味品種として、贈答用や観光果樹園での普及が期待されている。

##### ※3 葉先枯れ症

肥大するトマト果実の近辺の葉の先端が枯れ込む障害の一種で、枯死部が病気の感染源になるため問題となっている。カリウムの欠乏症であることが知られているが、土にカリウムを与えても改善されないことも多く、発生にはカリウムの栄養状態以外に多くの要因が影響していると考えられている。

##### ※4 食味ランキング

(一財)日本穀物検定協会が食味官能試験（炊いて実際に食べて比較する検査方法）を実施し発表している全国のお米産地品種の食味格付けのこと。複数産地のコシヒカリブレンド米を基準品種としている。昭和46年産米から毎年全国規模の産地品種について実施されており、平成27年は139産地品種について実施され、県内では飛騨産コシヒカリ及び美濃産コシヒカリが最高ランクの「特A」の評価を受けた。